

一泉

発行所 野山町出町
〒921 金沢市 3丁目10-10
金沢泉丘高等学校内
一泉同窓会
電話(0762)42-0211
定価 1部 100円
(株)橋本清文堂

草創期の第二代校長

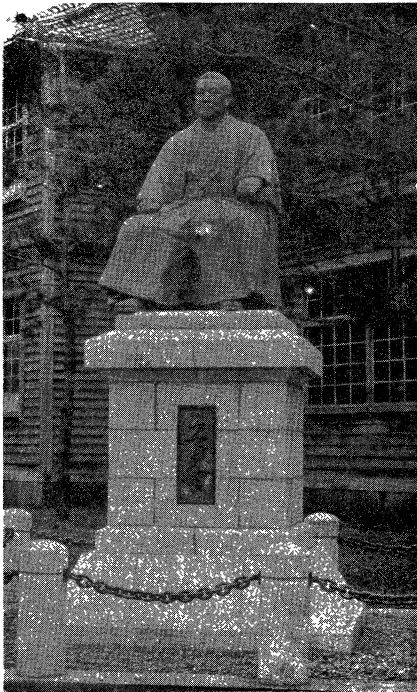
久田 督先生

伝統を吸収しており、草創期の校風の中には、士族的気風が濃厚に継承されていたと思われる。

草創期の一中は、初代、野人的な富田輝象校長、それと对象的な、二代目野田藤馬校長とつづき、三代目の久田督校長は、その両面を兼ね具えた大型の人物であった。

金沢第一中学校は藩学の系譜を直

接にひくくものではないが、石川県における最古の県立中学校として藩末から明治初年にかけてめまぐるしい改廃を重ねた過渡期の藩立諸学校の



日本多町校庭の久田校長像

て、明治十四年(一八八一)帝国大を首席で卒業したのであった。卒業と同時に、農商務省官僚の地位が約束されていたが、家庭の事情に依り、当時比較的高給であった教職に従事せざるを得なかったのである。

二十二年、三十二才の若さで福井の中学校長として招かれ、その後十九年に、たびたび校長排斥騒動をおこし難校として有名であった三重県第一中学校に六代目校長として転じ、その後、はじめて、工業学校長として郷里石川の土を踏んだのである。

工業時代には、校長・教頭の減俸を代償にして校舎の新築を敢行した業績は有名である。

先生は、外面的にはつねに県人らしい限界をもった行動をとっていたが、内面には極めて激しい気魄をもっており、金沢士族の気骨を代表するに足る人物であった。

李家県知事の来校時の「ゲートル問答」が、先生の言行を示す代表的な一事件であった。

先生が、後の文部大臣中橋徳五郎氏の義弟にあたり、政界の有力者に知己も多かったが、県内の政治権力との接触をつとめて避け、教育と政界との悪縁を断ち切った事が、大校長としての名声を全うさせる一つの

原因ともなったのである。先生は十年に余る校長経歴によって培われた行政的手腕は、着任後は徐々に生徒定員の増加をはかり、後にその総数を八〇〇人に拡張するなどは、そのすぐれた手腕の一端を示すものといえよう。

先生には近代的な思想とは評価し難い側面があり、外人教師の国辱的な発言に憤激したと云う逸話や、三宅雪嶺・頭山満等と親交のあった点からみるに、国粹的傾向がかなり強かったように推測される。従って、その訓育には、かつての私塾的伝統をなお強く残していた。

又、きわめて包容力の豊かな人物であるとともに、生徒の訓育に細心の配慮を払う人柄でもあり、春風駘蕩たる温顔と寡黙ななかに深い意味をたたえた訓話が、生徒に強い感銘を与え、敬慕の対象となっていたが、大校長の風格のなかに、次第に近代教育の充実過程から取り残されつつある後進性がひそんでいたことを見のがせないのではなからうか。

ちなみに、現校庭の左脇に「厳霜烈日可畏而仰」

と記された「厳霜碑」の建立が、明治四十一年(一九〇八)に完成したのも久田校長の業績の一端として現在におよんでいるのである。

※一泉同窓会所蔵の文献参照。

「一泉」第六号によせて

泉丘校蔵書解題目録の

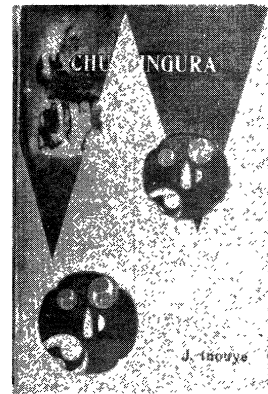
編集を終えて (3)

CHUSHINGURA (忠臣蔵)

山森青 現

本書は欧文の忠臣蔵である。一寸変った書物であるが、蔵書印に「石川県立金沢第一中学校蔵書之章」とれっきとしたものがある。明治四十三年(一九一〇)東京中西屋書店発行、二六九頁、23×14.5cm中味は英文ばかりで、唯、挿絵が沢山あり、これで忠臣蔵であることが判る。

訳者は、当時一流英学者井上十吉氏である。十吉氏は大小幾種の井上英和辞典と井上和英辞典を編纂され、余りにも有名である。彼は文久二年(二六三)十月徳島藩士として生れ、明治六年(二六三)十二才(洋学編年史は十三才とある)の時藩命により英国に留学させられた。同15年帰朝、専攻は採鉱学であった。明治19年、26年迄第一高等学校に英文学を講じた。明治31年(二八九)外務省翻譯官としてベルギー公使館に在勤、後米國に転じた。其間本冊「忠臣蔵」英訳して、最も広く海外に紹介せられたのであった。晩年小笠原長生著「東郷



大将伝」の英訳を脱稿し乍ら、上梓なく昭和四年四月七日病歿された。六十八。彼の最も喧伝されたはこの「忠臣蔵」であった。日本、即(そく)忠臣蔵であるといつても過言であるまい。本書英訳上梓明治四十三年(一九一〇)は、日露役(米英の仲介

後)の我邦文物漸くかたまりたる時節であり、本書の発刊部数は未知であるが、万邦は競つて本書の輸入に懸命したと云う。

太平洋戦争直後、我邦ボツダム宣言受諾の時、彼国は多く先の在日米大使グルー(GREW)の言を信じたことであつた。日本国民は皆忠臣蔵であると見たのであつた。何十年経つても敵討をせにやきかぬ國民である。此の思想を根底から覆すべきであると、マッカーサーに進言し

たのは本冊であつた。爾来三十有余年、葉は効き過ぎて、全くの骨抜きになろうとは、彼氏も予測しなかつたであらう。

扱井上十吉氏の訳本原本は「赤穂義人録」であつたと云う。義人録の著者室鳩巢は後程幕府儒官となり、沢山の名著を残されたが、在金沢時代の著は、僅かに「明君家訓」と「赤穂義人録」の二著のみであつた。鳩巢金沢に居て江戸の様子は判らなかつた。元禄十五年(一七〇〇)赤穂浪士復仇なつた翌年、元禄十六年、鳩巢は加賀藩江戸詰藩士杉本義隣によつて其詳細を知り、金沢居宅に於て脱稿したのであつた。尚鳩巢門生小谷継成を広島浅野邸(前田家と親戚)に派遣して、細微な添削をなし義人録の完璧を期したのであつた。



室鳩巢像



赤穂義人録 今から考えれば、何んでもない様であるが、当時としては大センセーションを起したと云えよう。

時の政府(徳川)に反駁する者を正とし、与党を邪とするのであるから、然かも外様雄藩加賀藩から狼煙が上つたからである。それかあらぬか、享保四年(一七一九)の赤城義臣伝(片島深淵編)は大きく御咎を受け、幕府公刊を禁止した。其他多くの書が発売禁止が命ぜられた(外骨筆禍史)。どうしたことか、室鳩巢の義人録のみ御咎なく、天下を風靡した。然かも「英訳忠臣蔵」は日本の代名

